

「変体仮名」のこと 「」の用語変えませんか？

橋口 侯之介（誠心堂書店）

S 日本の誇る古典なのに

明治三十三年、当時の文部省が出した「小学校令施行規則」によって仮名書体は一字一音とされた。学校教育の場での統一ということだった。この時ははずされた書体を変体仮名といい、その後の出版物・新聞雑誌から姿を消した。以来、この変体仮名を読めるのは研究者か書家などの一部の人に限られ、大半の人はその存在すら知らない。

施行規則が出るまでの千年間の書物は、この「変体仮名」を使用していた。にもかかわらず、現代の人はそれが読めないで、せっかくの古典を活字に翻刻されたものでしか読むことができない。中野三敏九州大学名誉教授は、つねづねそれが日本文化にとって大きなマイナスであることを力説されている。

実際、社会人向けの「古文書を読む」とか「黄表紙を読む」といった講座や、大学での国文学や近世史などの講座で学ぶしかなく、中野先生も想定されているように日本人のせいぜい〇・〇一%以下しか「読む」ことがで

きないありさまである。

十九世紀までの千年間、平仮名は書芸術としても扱われてきた。文字を美しく書くことは日本文化そのものだった。今でも、かな書道の人たちは「変体仮名」で書く。この美意識の対象だった文字を「変体」というために、ますます一般の人から遠ざけてしまっている。「変態」と同音だからだ。英語でいえばvariant。音楽なら変奏曲、書誌なら異本と使う類例があり、本来は書体のバリエーションというほど意味なのだろうが、用語が美しくない。

似た分野で、表音仮名遣いに対して「旧仮名遣い」ともいうし、「歴史的仮名遣い」ともいう。これにならって、「歴史的仮名書体」とか「古典かな」などと呼称することは可能だろう。

S コード化への動き

用語の見直しをいうのは、今、この「変体仮名」を文字コード化する動きがあるからだ。これまで、平仮名は一字一音だけがコード化されてきて、それ以外は無視されてきた。変体仮名は単なる図形としてしか認識されていなかった。

二〇〇〇年にJIS改訂（いわゆるJIS x 0213:2000）が行われ、一万二二三文字が策定され、そのうち一一八三文字の非漢字があった。だが、この非漢字の中に変体仮名は含まれなかった。一応議論の俎上にあげられたようだが、見送られている。

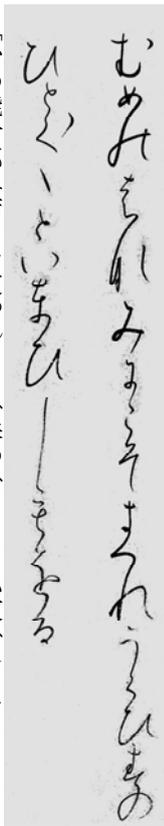
その理由は、JIS x 0213の「解説」によれば、「文字セットとしての変体仮名のレパートリの確定が非常に困難であると判断されたことと、採用例などに基づき、

幾つかの変体仮名を追加することを想定した場合でも、『図形文字として十分に
同定可能な安定した字形を示すこと』『変体仮名とそのもととなった漢字の草書
体とを明確に区別すること』などが困難であり、採録基準を満たせないと判断さ
れたことから、変体仮名は採用しないこととしたとある。日本語のわかりにくい
文だが、変体仮名はいくつかの異なる書体があつて特定するのが困難なこと、
漢字の草書体が変化したもので、元の漢字の草書体と区別できないから、とい
うことらしい。たしかにそういう一面を持っているのは確かである。

しかし、江戸時代の子供たちが難なく読めた文字を、「同定可能な安定した
字形」がないとか、「草書体と区別できない」というなら、どうすれば解決でき
るのかを考えるのが現代の大人たちの智慧ではないか。

ようやく、今、UNICODEに採り入れる方向で検討が具体化してきた。古い人名
には変体仮名が用いられてきたので、戸籍のためには以前から独自のフォントが用
意されていた。それと学術的な要望を考慮してこの動きとなったのだそうだ。私と
しては大いに応援したい。

左の図は『古今和歌集』の古い書写である『高野切』のある歌のところである。そ
の釈文としてこれまでの方法では変体仮名部分を字母となる漢字であらわした。



「むめ能者那み爾こそ支つれうくひ春のひとくとい東ひしもをる」
これではよくわからない。文字コード化されて、フォントがあれば、
「むめ能者那みよこそ支つれうくひ春のひとくとい東ひしもをる」

と表記することもできる。さらに「むめのはなみにこそ支つれうくひすのひと
くといひしもをる」と近代仮名を加えればよい。

単なる図形として見るのではなく文字コード化しておけば、こうして文章
に取り入れることができるし、将来、OCR（文字読み取りシステム）で和
本や古文書が読み込めるようになったさいに、文字コードが有効である。

§ 歴史的仮名書体へ

今、古典籍の画像化が進んでいるが、それだけでは十分ではない。そ
れを現代人も読めるようにすることが目標であるべきである。そのため
のくずし字が読める人材は余りに少ない。そういう人が育ち、歴史的仮
名書体・古典かなを親しめるような工夫が必要だろう。その一つとして、
パソコンやスマートフォンなどでどこでも気軽に調べられるネットのア
プリケーションを開発してみた。まだ、テスト版なので、不十分だがご
覧になってご意見をいただければ幸いである。裏表紙参照。

<http://www.book-seishindo.jp/kanal>

入門書の多くは五十音順に仮名のバリエーションが並ぶようににつくら
れているが、そもそも何の字なのかかわからなければ調べようがなかつ
た。一部に起筆・起点順に書体を探す辞典があつて、それがくずし字一
般に有効と思われたので、その方法で作り返してみた。そのほか、元の
漢字母字から見る方法も入れた。実践で読む訓練のための実例ページも
ある。ネットの特性であるハイパーリンクを生かせる方法を模索してい
る。閲覧利用は自由である。